

自在に駆ける快感

東大 OLK 大会 2014 年 6 月 1 日 群馬県渋川市

木村佳司

赤城 ~ 白の鞆 ~

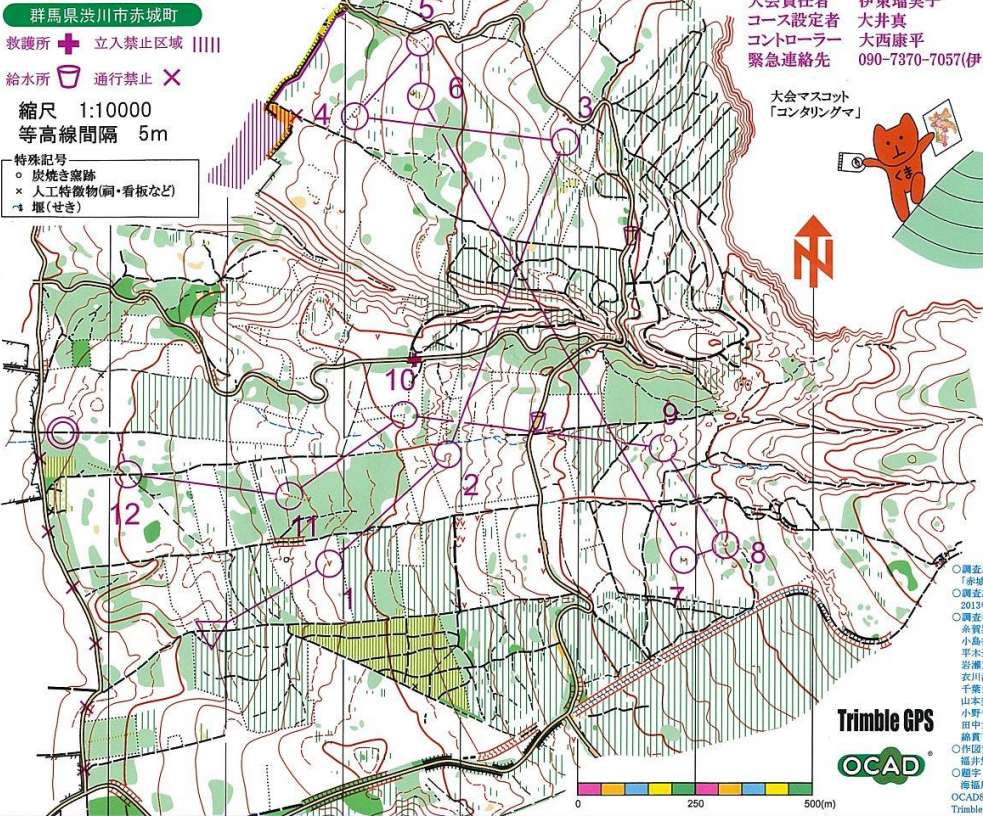


第36回 東大OLK大会

2014年6月1日(日)
大会責任者 伊東瑠実子
コース設定者 大井真
コントローラー 大西康平
緊急連絡先 090-7370-7057(伊東)

	M50A W21A	5.0km	110m
▷		↗	↘
1	246	∨	○
2	239	↑	
3	219	∩	♂
4	214	∪	○
5	217	∩	∪
6	216	∩	∪
7	226	∩	○
8	223	∪	○
9	227	∩	
10	236	∩	∩
11	247	∩	
12	35	↗	↘

○---210m---



大会マスコット「コンタリングマ」
調査機関「赤城～白の鞆～」(2009年東大OLK作成)
調査期間 2013年8月～2014年5月
調査者・調査協力者 森野真大 福毛日菜子 今井香登 岩尾洋平 岩田健太郎 榎本智久 久保田雄起 小島拓也 佐藤寛 田村善孝 田森智寿 長友悠 峰須賀久晴 林俊太 平木達也 山口遼子 横山鏡 有賀奈津美 石井萌子 伊東瑠実子 井上望 岩瀬万葉 上杉早希 上松遊 大井真 大久保宗典 萩原美乃莉 梅福麻子 武川尚輔 廣木梨花 小山奈月 佐藤謙太 榎坂圭介 幸井理輝 高田宗輝 千葉英子 深田暁 堀井悠太 堂川早穂 村川拓也 村吉輝之 森藤二郎 山本英樹 榎谷大輝 井倉幹大 石神愛海 猪俣祐貴 大西正倫 大山祐未 小野幸純也 木島佑輔 栗本剛 小村彩英 齋木樹 鈴木映帆 田中圭 田中大貴 土池佳那 橋本知明 前中剛人 増田七郎 松島彩夏 山口雄太 鶴貫可奈子
作図責任者 福井悠太
© 監修 梅福麻子 井上望
OCAD8.13 (Licence No.2259)
Trimble社 GPS PATHFINDER SBハンドヘルド 使用

筆者が参加した M50A のコース。縮尺 1:10,000 を使用してトレインのいちばん楽しい部分がコースに使われている。上位クラスはさらに広い範囲を縮尺 1:15,000 で図化されている。

ルートプラン、ナビゲーション、直進・・・オリエンタリングの愉しみが詰まったレースが赤城西麓で行われた。

2014年6月1日群馬県渋川市
東大 OLK 大会

ME

1	結城克哉	1:21:32	トータス
2	寺垣内航	1:22:32	京葉 OLC
3	真保陽一	1:22:53	B&B

WE

1	加納尚子	1:21:01	朱雀 OK
2	守屋舞香	1:24:08	桐山女学園
3	渡辺円香	1:31:49	ES 関東 C

北東学連 Ws

1	松田沙也加	1:01:38	岩手大学
2	本間実季	1:03:51	東北大学
3	葭葉歩未	1:04:59	東北大学

北信越学連 Ms

1	山本遼平	1:27:02	新潟大学
2	松澤卓也	1:31:05	金沢大学
3	高嶋健吾	1:34:31	金沢大学

北信越学連 Ws

1	五味あずさ	0:53:43	金沢大学
2	荒井清美	1:07:12	金沢大学
3	野澤麻乃	1:07:43	金沢大学

MF

1	久野元嗣	0:46:35	千葉大学
2	水間隼人	0:48:58	東京工大
3	大場紫音	0:52:13	東北大学

WF

1	長谷川真子	0:37:10	東北大学
2	平野伶奈	0:40:15	東北大学
3	櫻井彩菜	0:43:03	KOLC

W21A	砂田莉紗	KOLC
MAS	杉村俊輔	東北 OLC
WAS	西脇博子	入間市 OLC
MASS	淵上貴弘	OLK31 期
M70A	鈴木榮一	千葉 OLK
M60A	小林二郎	入間市 OLC
W60A	山本陽子	ES 関東 C
M50A	杉本光正	ES 関東 C
W50A	植松裕子	入間市 OLC
M43A	上條 圭	方向音痴会
W43A	丸山由美子	みつけ OLC
M35A	飯野雅人	横浜 OLC
W35A	宮本知江子	京葉 OLC
M20A	橋 孝祐	KOLC
W20A	宮本和奏	京葉 OLC
M18A	池田 匠	東京学大附属
M15	長澤徳英	麻布中学
W12	丸山里那子	みつけ OLC

北東学連 Ms

1	宮西優太郎	1:13:53	東北大学
2	佐藤雄太郎	1:15:52	東北大学
3	半沢 守	1:19:49	東北大学

各クラス優勝者

M21A1	田邊拓也	養鶏 OLC
M21A1	高見博道	OPC43
M21A2	太田裕士	京大 OLC

赤城山麓

緩斜面、初夏でも良好な通行可能度、まとまった面積を持つ森林・赤城山西麓に素晴らしいトレインが広がる。ここで行われた東大 OLK 大会ではこのトレインを活かした、面白いコースが提供され、多くの参加者がナビゲーションに悩みながらも、自在に森を駆け抜け、初夏の森を堪能した。

爽やかな木陰

大会日は梅雨入り前の快晴となった。列島各地で真夏並みの気温を叩き出した。だが標高 700m の高原は暑さもほどほど。一歩森に入ればすーっと暑さが和らぐ。給水所は充実しており競技者へのサポートも万全だった。



青空会場に照りつける強烈な日光。でもタープがあれば快適。

熊鈴を響かせて

「トレイン周辺で熊の目撃情報があります。熊鈴を携帯して出走されることを推奨いたします。」プログラムに書かれたこの言葉で、多数の参加者が鈴を鳴らせながらレースを進めた。トレイン内部のあちこちでチリンチリン。これだけの人が鈴を鳴らせて走っていれば、熊の被害に遭うことはないだろう。

この取組みが増えれば、オリエンテリングと里山の共生がより強固にな

るかもしれない。近年、野生動物が増え、農作物への被害が深刻化している。里山近くへの野生動物侵入を防ぐことが大きな課題となっているのだ。

ロングセレクション

東大 OLK 大会では本格的なロングコースが提供されると同時に、インカレロングの北東学連と北信越学連の地区選考会が併設されていた。ロングレース自体が少なくなっているなか、貴重な機会である。

思いをかけたイベント

赤城山西麓は数百人規模のイベントを行うには不便な場所だ。適当な会場が無い、駐車場も無い。だが青空会場を作り、バスによる大規模輸送を行うことによりイベントをこの地に作り出した。この運営を支える運営者として多くの学生が投入されていた。これだけのマンパワーをかけられる大会は、おそらく今の日本では東大 OLK 大会だけだろう。

毎年大会運営の伝統を引きついで、高品質のイベントを作り出す東大 OLK。それぞれの大会はそれぞれの学年の思い入れをつぎ込んで作られる。この思いが東大 OLK の活動パワーの源となっており、それが日本のオリエンテリングを支えているパワーの一部となっているのだ。

二刀流が大成功

ここからは私個人のレースを振り返ってみよう。ここ最近ではコンパスを 2 個持ってレースに望んでいる。左手にはハンドコンパス、右手にはプレートコンパスである。シーンによって使い分けながらレースを進めている。

今回の東大 OLK 大会では、コンパス 1-2-3 のテクニックを使用した直進を多用した。これだけ緩斜面で通行可能度が良く、特徴に乏しい斜面では、思い切った速度で直進することによって目標に速く到達できる。

線上特徴物を辿るときはハンドコンパスで正置しながらレースを進める。私の場合はサムコンパスよりもこの方式のほうがしっくりと来る。

今回の赤城のトレインではプレートコンパスの利用率が高かった。普通の丘陵地トレインでは利用時間の 90% がハンドコンパス利用であることを考えると、コンパス直進が多かったのが判る。

どんなトレインでも二刀流コンパスなら対応できるぞ。

練習不足を実感

これだけ直進を利用したオリエンテリングをしたのは実は久しぶり。結局最後まで自信を持って直進することができなかった。さらに森を走る速度も以前ほど速くなく、もたつきを感じた。オリエンテリングの基本を使いこなせるための練習が不足しているのは明らかだった。

赤城の風になれる気がするほどの快感を得るまでにはもう少し修業が必要のようだ。

まずは少し重くなった体を健康診断までになるべく軽くするところから始めようか。

(木村佳司)